指導の形態	国語「助詞の指導」 ～ジェスチャーゲームを通して～	障がい種等	特別支援学級 知的障がい

授業の概要やよさ

・本事例は、助詞の指導を行った事例である。
・子どもの興味関心を持たせるため、ジェスチャーゲームを教材として取り上げ、楽しい雰囲気の中で学習を進めた。

児童生徒の様子

Ａ男：小学校５年
○作文や日記の中で助詞を間違って使うことが多い。特に「に」を使う部分で「を」を使う。本読みでも助詞を飛ばしたり、間違って読んだりすることが多い。
○２語文程度の簡単な文を理解したり、話したりすることができる。
○見通しが持てると落ち着いて学習に取り組む。
○正解したことを自分で確かめることで意欲的に取り組む。
○字を書くことが苦手である。

目 標

正しいことばを入れてジェスチャーを表す文を作ろう。（具体的な動作や場面を見て、適切な助詞を使って文を完成させる。）

支援のポイント

ジェスチャーゲームを教材として取り上げ、楽しい雰囲気の中で、以下の手順で、学習をすすめる。

《進め方》

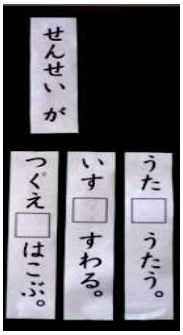
①教師がジェスチャーゲームの出題者をする。
・助詞に意識を向けることができるように、問題のリストを提示しておき**【写真１】**、助詞を入れて答えさせる。難しい時は、２つの文字タイルから選択させる。
・を に等、答えのカードを用意しておき、できたら上に貼りつけて確認させる。**【写真２】**
・正しい助詞を入れた文は、教師と一緒にジェスチャーしながら言って復習する。

【ジェスチャーゲーム：出題者の動作】

《椅子に座る》

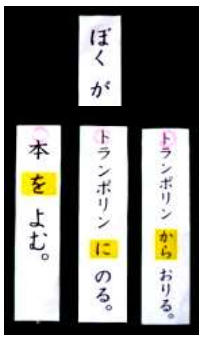
《机を運ぶ》

②A男が出題者になる。【写真３】
・助詞の入った問題のリストを見ながら行う。教師が答えるときに、「トランポリン？」と助詞の部分で悩んで見せたり、間違った助詞を入れて答えたりして、助詞を意識できるようにする。



【写真１】

【写真２】



【写真３】

③学習した文を表すイラストを見て文を書き、「助詞表」に貼り付ける。
・「助詞表」は、ジェスチャーゲームの解答を考える際の手がかりにも活用する。